

炎

橙色をした炎が静かに揺れる

みしみし

ぱちぱち

音が吸い込まれてゆく

僕らの視線も吸い込まれてゆく

輪郭のない空間の広がり

360度の眺望とは違う広がり

いつの間にか

時が逆向きになっている

人類はこの炎を見つめてきた

しかし今、直接見ることは殆どない

僕たちは互いの鼓動を感じ合い

互いの瞳の奥を見つめている

お前の肌に触れることの

お前に肌を触れられることの愉悦

この炎がもたらしてくれた贈り物

それは、この組み合わせられた掌の中にある

とてもとても古い調べが聞こえてくる

哀歌であって、讃歌である——

祈りの夜に憩うこと
彫琢し、磨き続けること

明日を迎える準備をすること
おお、生きること

炎が静かに揺れている

(2012.4.15)